

-第 90 回 IRIDeS オープンフォーラム- 2024 年度 災害レジリエンス共創研究報告会を開催しました (2025/7/25)

テーマ：災害レジリエンス、災害デジタルツイン、ヒューマンレジリエンス、共創・連携

会 場：オンライン

URL：<https://irides.tohoku.ac.jp/event/irides-forum/irides-forum2025/20250725.html>

2024 年 7 月 25 日（金）、「2024 年度災害レジリエンス共創研究報告会」をオンラインにて開催しました。本報告会は、昨年度に「災害レジリエンス共創研究プロジェクト」として実施された、当研究所と学内外の研究機関とによる共同研究の成果発表の場です。IRIDeS オープンフォーラム恒例のイベントとして毎年 7 月に開催しており、今年で 3 年を迎えました。

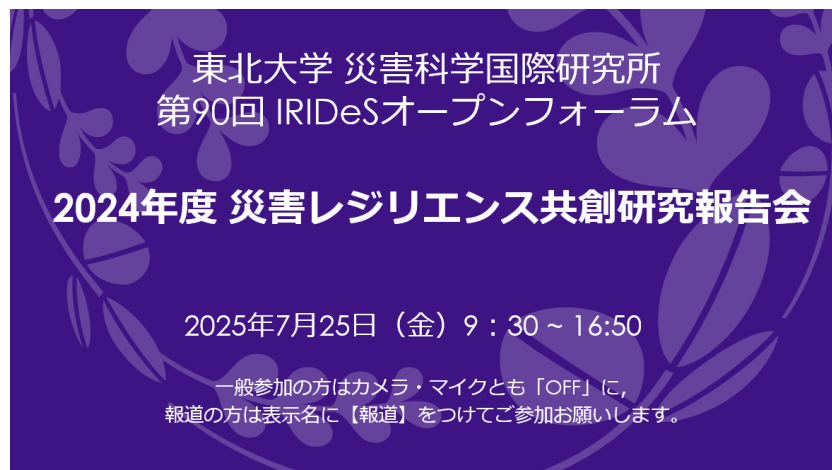
開会にあたり、災害レジリエンス共創センターの江川新一センター長より、本プロジェクトでは一昨年度に 42 件の研究が行われ、2025 年度にはさらに多く 49 件の研究が進行中であることが紹介されました。また、年々分野横断的な研究とネットワークが広がりを見せており、今後は国際的な研究水準の向上を見据えて、得られた成果を論文として積極的に発信していくことを期待するとのメッセージが寄せられました。

セッションは、災害レジリエンス共創センターが構築を進めている「災害デジタルツイン」開発に関連する研究をはじめ、重点研究領域である「災害レジリエンス数量化」「ヒューマンレジリエンス」「災害情報キュレーション」「災害レジリエンス共創」、さらに「人流データを活用した社会動態の解明」について、多岐にわたるテーマで発表が行われました。一年にわたる研究成果や実践活動の報告に対し、各セッションでは専門分野を越えた活発な議論が展開され、参加者からは「新たな視点を得ることができた」「異なる領域の研究に触れて刺激を受けた」といった感想が寄せられました。また、「興味深い研究ばかりで研究意欲が高まった」「将来は災害時に貢献できる人材になりたい」といった声もあり、学生・若手研究者にとっても学びの多い機会となりました。報告会の終わりには、災害科学国際研究所の栗山進一所長より、本フォーラムで得られた新たな知見やネットワークを、今後の研究推進に大いに活かしてほしいとの期待が述べられました。さらに、東日本大震災や能登半島地震からの復興に資する研究、そして将来の大規模災害への備えとして、人々の行動変容を視野に入れた学際的な研究の発展が求められることが強調され、会は締めくくられました。

当日は、総合司会を災害レジリエンス共創センターの永田彰平が務め、各セッションの座長には野村怜佳、高橋尚志、林宏典、齋藤玲、内田典子、原裕太（敬称略）があたりました。オンライン開催にもかかわらず、100 名近い方々にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。災害レジリエンス共創センターでは、今後もこれまでに築いた連携を活かし、実践的かつ学際的な研究活動のさらなる発展を目指してまいります。

本報告会の運営は、IRIDeS オープンフォーラム WG（乗松君衣、原勇貴、石澤堯史、猪狩暢子、高橋利恵子、武田百合子）により行われました。

文責：江川新一、永田彰平、武田百合子（災害レジリエンス共創センター）
（次頁へつづく）



オンラインにて開催



江川センター長による開会の挨拶



栗山所長による閉会の挨拶



総合司会・各セッションの座長